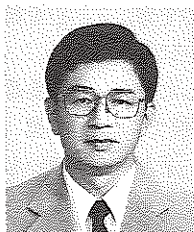




11月9日同窓会で弦中フェスタ開催 ～ 多数の参加者を望む ～



同窓会会長 新川勝二

早いもので同窓会総会も3回目を迎える事ができました。平成元年より設立の準備を始め、9年目を迎えようとしています。

会員も11,000名近くになり、地域の学校としてますます充実した教育環境を必要としていると思います。

地域が学校に目を向ける。向けてもらう。そうすることにより人間関係ができ、人作りができる。公立中学校の同窓会の楽しさは、横関係、縦関係の人間づきあいのできることのように思う。

少年時代は誰でも懐かしい。特に、中学時代が懐かしいのは、ある意味では心の成長のふるさとをそこに見るからだと思う。是非恩師、友人との交流

の場の一端として同窓会を共に協力して育てていただければと心から願っています。

昨年はボロ市保存会の要請により、保存会の売り場（さぬきうどん）にPTA（弦和会）の協力も得て担当しました。地域との関係を少しずつ深めつつあります。

今年度は総会時に「弦中フェスタ」として、ボロ市保存会の協力はもとより、地域の人々との協力を得て「フリーマーケット」と「模擬店」を計画しています。弦中同窓会がますます活性化し、同じキャンパスに学んだ、信頼に根ざした人間関係がより広がり、会員同士の交流から、新たな人生がひらかれることを願っています。

長田校長先生に聞く——

弦巻中学校の現況と同窓会への希望

この度、第3回の同窓会を開催するにあたり、現在の中学生気質と同窓会のありかたを長田校長先生と対談ということでお伺いいたしました。

聞き手 同窓会会長 新川 勝二
副会長 後藤 宣夫
近藤 政之
佐野由美子



■昔の中学生と今の中学生

会長 まず、昔と今の中学生はどう違いますか？

校長 ひと昔前に比べれば、ずっと素直にものを考えたり、受け入れたりします。中学2年くらいになって、むやみに教員に反発したり、親に反発したりという傾向はなくなってきました。だから学校で、不登校とかいじめとかが起きるといことは、子ども自身に問題があるととらえるよりは、学校なり家庭なりの人間関係を学んでいく、あるいは人間形成していく過程に大きな問題があると考えます。公立の学校に限って言えば、平成元年の新しい学習指導要領の改訂で学校週5日制が入ってきて、授業時数確保で学校のゆとりがなくなり、集団として学校で遊んだり、遅くまで残って子ども同士が話をしたり何か一つの目標に向かって制作したり、そういう時間がなくなってしまったことにあると思います。

副会長 学校が終われば、最近の子どもというのはどうなんでしょう。

校長 ごく平均的なのは、6時限まで授業をやって、部活を6時までやって、急いで夕飯食べて塾に行って、7時から10時くらいまで塾にいて、帰って来て1日が終わる。

副会長 今の中学生の方が、精神的に大人の部分を持っているような気がします……。

校長 情報が多いですから、大人といえは大人です

ね。ただ、いろんなものに対する好奇心などについては、昔の方が情報がなかっただけに、自然に好奇心を持っているいろんなものを追求しようと思いましたね。

副会長 弦中のスポーツの状況はどうなんですか？

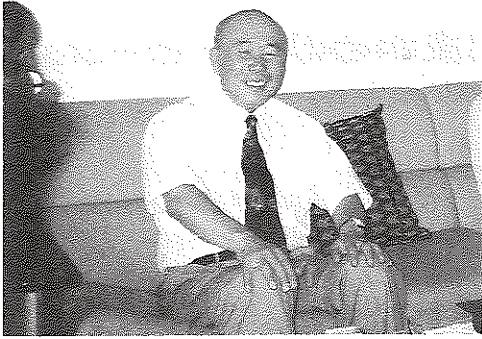
校長 部活の加入率は非常に高いですね。とびきり強いものになると、専門的に教えている講堂学舎の柔道、それから水泳ですね。そしてサッカーですが、春の大会で3位になってますね。バスケットも去年の新人戦で2位、今年も夏の大会で女子が4位、男子がベスト8になりました。

私は部活は子どもが嫌にならない程度に楽しんでやって、いいとこ2位、3位くらいに入ればいいんじゃないかと思うんです。部活の中で力を発揮して自分のすべてをかけるというのは、高校生になってからでいいと思うんですよ。

■地域と学校とのふれあい

会長 運動会など、どうして弦中では日曜日に来れないのでしょうか。保護者に積極的に見てもらうということであれば、日曜日などにやってもらうのがいいと思いますが……。

校長 50年代に戦後の非行の第3のピークがあり、それをさかいに日曜日はやめようということになりました。今年は初めて体育大会を休日の土曜にやり



長田校長先生

まして、外部の人が700人いらっしゃいました。大変評判が良かったですね。

会長 見ていて非常に楽しかったです。

校長 去年、弦巻が荒れているという評判が地域にたちました。そういう意味で、決して荒れてないんだという実態を見てもらったのはよかったです。

会長 一時、そういううわさが出てたしかめに行ったら、「授業見て下さいよ」と言われて見せてもらいましたが、静かに熱心にやってるもんだから、「これで、荒れているって言うんですか」と言ったことがありました。

校長 学校が閉鎖的であれば、実態が地域の人にはわからないわけです。すぐ、見て下さいというふうにしておけば、見てどこが荒れているのかと思います。今年は体育大会を第2土曜にしましたし、地域懇談会を小学校と一緒に今年やりました。職員の理解が深まりました。

■理想の弦中

校長 見里先生が作詞された「広いこのにわ（校庭）でおどろろよ、手足のばしてたのし、たのし、われらの弦巻中学校」それから「若人のいのちの泉、くみとろろ、こころゆくまで、すすむ、すすむ、われらの弦巻中学校」「力のかぎり、はげむ、はげむ弦巻中学校」。これは校歌であり、教育目標であり、弦巻中学校の姿です。これに出てくる楽しい学校、力いっぱい、力みなぎって、力を発揮して、精一杯頑張ろうという気になる学校、これが理想ですね。

会長 最初のころ、私たちは見里先生に習いました。一緒に卓球をやったりもしました。そんな理想像みたいなのを、見里先生は校歌の中に織り込んだ部分がありますね。

副会長 創立当時は先生も必死、どんな学校になっていくかわからないけれども、団結心みたいなものがありましたね。

会長 子ども心に、先生は大変だなと思いました。

■同窓会のめざすもの

校長 毎月一回ずつ集まって、役員の方々が学校の様子なり同窓生の消息なり、これほどきちんとやっている同窓会はそうないと思います。私は同窓会の教育力を在校生に浸透させていく。これが一番だと思います。

会長 学校とうまく連携のとれた同窓会を模索しながら発展していきたいですね。同窓会だけでなく、PTA（弦和会）の力も必要だし地域の方に協力してもらわないとできないこともあります。

副会長 弦中の卒業生のお子さんがまた、弦中に通われている例ってかなり多いんですか。

校長 かなりいますね。自分が卒業生であれば、在校生に対して見近なものを感じますから……。

会長 今回初めてフリーマーケットと模擬店をセッティングして第3回の総会をやるという企画がまとまりました。

副会長 うまくいってくると同窓会の新しい形が出来てくるかもしれません。

校長 フリーマーケットのときに同窓会の方に弦中同窓会という腕章を付けてもらおうといいですね。腕章がないと知らない大人になってしまう。大々的に大きな看板で宣伝して、弦中同窓会一色にしたいと思います。それにボロ市で、去年同窓会でさぬきうどん売りしましたでしょ。非常にうれしかった。地域の教育力というのはそういうところから出てくるんじゃないかと思っています。地域との一体感は同窓会を中心として出来ると思うんです。昔より今の子は大人に対して関係ないという意識を持っていますから。そうじゃないんだということをお教えるような役割をしていただけたら、ずいぶん違うだろうと思います。

会長 今回の同窓会がそのような役割が果たせるように努力いたします。本日はお忙しいところをありがとうございました。



弦の子だより

「先生からのメッセージ」

部活動その後

永野 剛夫先生（在任1955～1960年）

先日突然同窓会誌の原稿依頼があった。偶然その翌日一期生がご主人と我が家を訪ねてくれた。昔話を花を咲かせるうちに、遠い存在だった弦巻中が急に身近に見えてきた。

桜木、深沢、駒沢中から分かれて出来た弦巻中だったので、創立当時の生徒諸君は、友達とわかれて新設校に行くべきか否か、相当に悩んだ事であろう。開校時2年生2クラス、1年生5クラスで発足ののだが、自分達は寄せ集めの集団だという意識がとて強かったように思う。部活動の対外試合では、連戦連敗がしばらく続いた。我々教員が他校との親善試合に勝っても、なかなか信じてもらえなかった。この卑屈な意識を払拭しようと、若い教師達は生徒と一体になって練習に励んだ。その甲斐あって2、3年後には、区や都でも好成績を上げるようになった。

当時私はバレー部を担当していたが、その頃のメンバーと今でも毎年秋に顔合わせをしている。遠く青森からも参加するチームワークの良さで楽しい会である。今年の2月には、2期生でお互いに励まし合い競い合った野球部とバレー部の面々が、同期の会を持った。共に汗した仲間達といつまでも語り合える楽しみは、何にもまさるものであろう。

弦巻中のますますの発展と同窓生諸君のご活躍を祈念している。

山に棲んで

斎藤 柳子先生（在任1960～1972年）

弦中で最後に教えた人たちが40を越え、私も来年は古希を迎えます。

念願であった信州の山に住んで7年。標高900メートルの土地。木綿の衣服に単純な食物、スリッパ代わりにわら草履、まわりを囲む自然のやさしさと厳しさは、ある意味で、都会よりもずっと刺激的でさえあります。

そんな中で思い出す、私のいた頃の弦中の生徒は、すてきな思いやりのある生徒たちでした。長い

間休んでいた子に、みんなが交替でノートを作ってあげたり、クラス一のいたずらっ子が、長馬でいつも台になってつぶされている小さな友達を心配したり……。

そして、人間は欠点があっても愛すべき者と考え、個々の違いを認め合っていたと思います。山は一日として同じ姿をしていません。人間もまた、同じなのだ、とここに住んで日々考えさせられているのです。

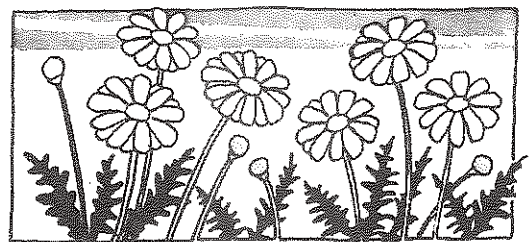
弦巻中との「えにし」

白井 顕先生（在任1961～1972年）

弦巻中のかかわりは、私には長く深いものとなっています。教員として10年間、娘と息子がお世話になった6年間、学校から数分の住居に30年、教育センターに4年など、何と65年の人生の過半の縁なのです。

1961年春、新しい鉄筋の校舎となった弦中に転動してきたのですが、多くの方々の辛酸を経て確立された基盤に乗って、学校としての成熟期に勤務できたように思います。まだ若く疲れを知らない年齢でしたので、エネルギーに仕事に勤み、趣味にも打ち込みました。その上、家庭作りにも励んだ時期でしたから充実していました。

学級・生徒会・クラブ・学校行事などの活動に力を注ぎ、特に生徒自身が主体的に創造する生徒会活動を目指し、共に頑張り成果をあげ得たのは、その後の教師生活での支柱となりました。学習発表会、運動会、林間学校（富士登山や尾瀬など）、連合陸上のことなど、皆さんの顔と共に思い出すこの頃です。





柔道チーム指導での思い出

金井 厚平先生 (1986～)

先日、マルチャン杯・関東少年柔道選手権大会の会場で、故郷の山梨県から小学生の柔道チームを引率してきた卒業生高村氏・小佐野氏に会う事が出来た。

彼らは私が弦巻中に赴任したとき、高村氏は世田谷学園高校1年、小佐野氏は弦巻中2年にそれぞれ在籍していた。

弦巻中の試合と時間が重なっていなかったため彼らのチームの試合を観戦する事ができた。

試合が進むにつれて、対戦チームとのレベル差が無くなり彼らの選手に対するアドバイスにも熱が入り、なぜか私はニヤニヤしながらその言葉に聞き入っていた。

残念ながら、彼らのチームはベスト8に残れなかったが、心から拍手を送った。

なぜ、私がニヤニヤしながらその言葉に聞き入っていたかという、その内容が、彼らがまだ現役の頃コーチから言われていた言葉にそっくりであったし、又、彼らが指導している小学生の柔道も前へ前へと出る弦巻中のそれとそっくりだったからです。

このように、地域のスポーツ少年団等の指導者になっている卒業生も他にいるとは思いますが、たまたま偶然ではあるが、現場で活躍している姿を見る事が出来た私は幸せ者と感じました。

中学生気質今昔

道家 信之先生 (1988～)

学校勤めを始めて、授業や担任として接した生徒は2,000人以上になり、最初に教えた生徒は50歳になる。時代と共に子どもの気質や生活が目まぐるしく変わってきた。落とし物の1本の鉛筆でけんかになり、教室内での議論も活発だったし、第一、学校が遊び場だった。現在はと言えば、あふれる物に囲まれ、いつも何かに追いかかれ、精神的に不安

定な生徒がいる事は否定できない。

「先生、中学校ってどうしてひとつのことしか許されないの」と中1の女子生徒が話しかけてきた。今は、いろいろな生き方があっていい時代だし、勉強方法や内容だって学校が絶対ではないことは明らかである。

社会や親御さんの要請と生徒の求める学校像をどう調和させていくか、なかなか策が見つからず、頭を悩ませている。だが、授業に出ている中1は人なつっこくかわいいし、中3は立派な成年で頼もしい。だから授業に出るのは楽しいし、先生になってよかったと思っている。

最近の弦巻中学校

日下 みどり先生 (1988～)

弦巻中学校の毎日は、私が9年前に赴任した時と大きく変わってはいないと思います。広い校庭と、少々古くなって、大雨が降ると廊下が水びたしになる校舎、明るくのびのびと育った生徒達。でも、最近少し気になる現象があります。男子生徒が少々おとなしめなのです(時にはかなり)。以前は、男子が生徒会役員のほとんどを占める時もあり、女子の消極性に心配をしていましたが……。

現在は特別活動に積極的に参加するのは女子生徒の方が多く、それに比べ男子生徒の影は薄くなっているように思えます。女らしさ、男らしさが問い直されている現在、その一つとしてこの現象があるのかもしれませんが。また、過保護気味の現代っ子、それが男子生徒の方に女子生徒より強く出ているのかもしれませんが。なかなかその原因は複雑であるようにも思えます。

しかし、心配はさておき、弦巻中学校の生徒達は毎日元気に学校生活を送っています。友達と楽しくおしゃべりをしたり、時には喧嘩をしたり。先生にほめられたり、叱られたり。中学校生活を大切に送っている顔があちこちで見られます。

「卒業生からのメッセージ」

弦中校歌に想う

野田 勝彦（第7期卒業）

小学生の頃から、姉たちの通った弦巻中には特別の思いを抱いていた。それは初代見里校長先生作詞の校歌である。私はよく馬事公苑の向こうの草の丘から、はるか彼方の大山や富士山を望み、沈む太陽を見ては感動していた。

「紺青の澄んだ大空 富士の嶺もはるかに浮かび見はるかす広いこの校庭躍ろうよ手足伸ばして…」

中学に進学する自分の心にぴったりの弦中の校歌。そしてその先輩たちの仲間に入ると、希望でいっぱいだったあの頃。

今年4月、3期卒業の故飯島巖さんの後を引き継いで弦中の青少年委員を引き受ける事になったが、自分が胸躍らせていたあの頃の気持を今の生徒達に伝えられたらと思う。またこの詩を授業で取り上げて、見里先生がどのような気持ちで作詞されたのか、思いをめぐらせてみてはどうかと思う。



テニスでの思い出

ミエコ・スティーブソン（光田）（第7期卒業）

中学3年間の思い出は明けても暮れてもテニス…、勉強はそっちのけでもとても充実していた3年間でした。その当時のテニスの顧問の先生は片倉先生。とても若くてはつらつとしてらしたと思いますが、当時のテニスのメンバーはとても強く、出る大会出る大会1位、2位、3位は弦中の女子でした。

その後の私の人生、やれる限りテニスを続けていましたが、アメリカ人の主人と結婚して以来、軟式テニスより硬式テニスに変わり、そして現在住んでいるテキサス州ダラスに移ってからは、日本人の奥



さん達と毎水曜日、社会人や学生達と毎土曜日、老体にムチ打って、それでもなお気だけは若くテニスを楽しんでいます。これからダラスの又うだるような暑い夏、ふき抜けるような青空の下で球を追い汗をかき、真黒に日焼けして、生きているっ！と感じる最高のシーズンがやってきます。そして時々うだるようなむし暑い日本の夏を思い出しています。

先輩と同じ職場で

石井あおい（第27期卒業）

それはまだ、私がいたいけな新人の頃でした。会社で先輩の仕事のお手伝いをしていた時の事です。ひよんな事から話題が「馬事公苑」になりました。

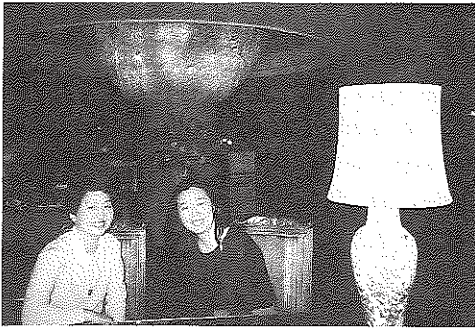
「そうそう、お馬さんがいて春には桜がきれいなんですよね」「あら石井さん、よく知っているわね」「中学生まで近所に住んでいたんですよ。小学生の頃には馬事公苑まで写生大会に行ったこともあります」「近所ってどこ？」「えっと松ヶ丘交番の近所だったんですけど」「私は松ヶ丘交番の近くに今も住んでいるのよ」「えっ、どこですか？」……

というわけで、ひよんなことから同じ課の野田聖子さん（3期）と私は昭和49年から56年頃まで非常に近所に住んでいて、しかも同じ弦巻中学校卒だということが判明しました。世の中狭いものだと二人で話しながら、まだ会社生活にも慣れずに身の置き所がなかった私はとても心強い味方ができたような気がしていました。

そんな初々しかった私も、今ではすっかり会社にもなじみ、毎日ゴジラのように火を吹きながら仕事をしていますが、野田さんには相変わらず同じ部でご指導を頂いており、お世話になりっぱなしです。

ふつつかな後輩ですが、これからもよろしくお願ひしますね、先輩！

追記（野田）石井さんは大学を卒業して平成2年4月に入社されました。今や部の中心的存在として



石井(右)、野田(左)



沼田真由(左)

バリバリ仕事をこなし非常に期待されております。

この頃のコト

弓削 典子 (第36期卒業)

先日、私はインターネットを始めました。と言うのは、高校時代の親友が短大を卒業しNTTに勤め始めたため、彼女の営業成績に貢献してあげようと、「いまどきインターネットを使わなきゃ就職活動、はかどらない」と親を言い含め、デジタル回線にすることにしましたのです。

インターネットなんて簡単につながると思っていたのですが、工事直前によく調べてみると私の機種は古いらしくいろいろとアップデートしなければいけないことがわかり、慌ててパソコン屋へ行き、一から教えてもらい、悪戦苦闘の末、なんとかつなぐことができました。始めてみると楽しく、今は毎日使っています。しかし、遊んでばかりでなく、そろそろ本当に就職活動に活用しなければならない時期になり、気がかりな今日この頃です。

私の中学時代

沼田 真由 (第37期卒業)

私にとって中学時代は、小学校とは全く違って新しい事ばかりでとても充実したものだ。部活での先輩・後輩といった上下関係や英語の授業。そして体育祭やロードレース・学芸発表会・合唱コンクール・球技大会などの学校行事。そのなかでも私が印象に残っているのは、体育祭で応援団をやったことである。応援歌やパフォーマンス、何から何まで自分たちで決め、何度も何度も練習した。クラスの協力や練習の成果あってか、私たちのクラスは見事優勝することができた。

あとは部活である。私は水泳部だったが先輩とは仲良く、練習は決して楽なものとは言えなかった

が苦にはならず、今思えばとても楽しいものだった。そして私たちは区大会を3連覇することができた。ほかにも楽しい思い出、苦しい思い出はたくさんあるが、今となっては私にとって全てが宝物である。中学校での経験が私にとってプラスとなったのは確かである。今は、夏の間中学校でプールの指導員をしている。中学校には久しぶりに行ったが、何も変わらずそのままであり、卒業してもう4年もたつが中学時代は昨日のことにように思い出された。もう一度中学時代に戻れるなら戻りたい。

プラスバンドと仲間

沼田 瑞江 (第37期卒業)

中学時代というと、楽しかった事しか思い出せない。その時はそれなりにイヤな事も悩みもあったのだが、今となっては本当に「良い思い出」だ。小学校から大学まで通ってみて、「学校」として一番おもしろかったと思う。私の所属していたプラスバンドは今思えば下手だったし、友達と喧嘩もしたけど、初めて一生懸命になれたものだった。明るいだけが取り柄のあの仲間とは今でも良い友達である。

そして私達は、とても子供だった気がする。もう中学生なんだからとか言われながらも、最後の義務教育、守られた環境をいっぱい満喫して、何だかとても楽しかった。沢山の卒業生が、こんな風に良い思い出として弦巻中を思い出しているといいな、と思う。

女子高生のパワー

高山 裕子 (第40期卒業)

私は今、「女子高生」である。「コギャル」ではない(たぶん)。世間でこんなにも騒がれている私たち「奇妙な種族」(←テレビでこう言われていた(笑))も、ただ単純な原動力で動いているだけなの

だと思う。それは「かわいい」ということだ。ファッションから身の回りのもの、食べる事まで「かわいさ」を求めている。花、キティちゃん、たまごっち、なんてのは当たり前。少し前に「死にかけ人形」というのがはやった事がある。グロテスクなゴム製の人形がキーホルダーになっているのだ。それを「かわいー」と言いながら買っていた友人らを遠

い目で見ていた覚えがある。という私も、最近のお気に入りにはブルース・リーのリアルな絵のグッズなのだ。それも私に言わせれば「かわいー」なのだ。と、まあこれらは極端な例であったが、ただ言える事は、今の世の中から「かわいい物」を探し出してくるパワーに関しては、今の女子高生は何事にも負けていないと思う。

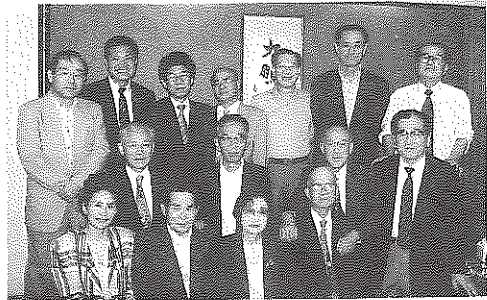
ひろ

先生たちの同窓会

白井 顕

先日（5月30日）、弦中教師OBの有志16名が集い、旧懐の楽しい一刻を過ごしました。

最長老88歳の崎浜先生から、来春定年を迎える、当時新卒だった山田先生まで、時を超えてみな弦中という一筋の弦で結ばれているのだということを痛感いたしました。



後列左から、柳田・山田・秋田・渡辺・百井・上野・大内、
中列左から、松原・田中・片倉・樋下田、
前列左から、田辺・岡崎・木寺・崎浜（敬称略）

初めてのクラス会

松岡（須藤）啓子（第8期卒業）



弦中を卒業して、早や33年。月日の流れは本当に早いものです。

1月にふとした出会いの近田優子さんが、10期生の同窓会幹事と知り、名簿を手に入れました。それがきっかけとなり、3月、8期生3・Fは卒業以来、初めてのクラス会が催され、山田道雄先生初め、23名の仲間が集まりました。懐しい人々です。アツと言う間にうち解け、4次会までしてアツと言う間にさよならでした。それぞれが大人になり、それぞれが、らしく生きてる姿が誇らしく見え、弦中の同窓生は素晴らしいと改めて感じ、自分の原点を見た思いがした1日でした。

同窓会幹事の皆様のお陰でクラス会ができました事を感謝致します。

送別会

加藤（野田）洋子（第4期卒業）

平成9年3月28日（金）、都内で白井昭子（旧姓大久保）さんの送別会を行いました。白井さんは永い間4期生の代表幹事として尽力下さいました。この度御主人の仕事に伴い米国デトロイトに移住することになり、21名の出席でささやかな宴を催しました。理由は何であれ、4期生は何回も集まっております、いつものメンバーが遠くより近くより馳せ参じました。そこは送別会ではありますが、白井さんをダシにして旧交を温めようと手ぐすね引いている面々が、代々木の森の閑静な一室に集い、弦中時代のいたずらな顔つきに戻りましても、頭に霜を頂いている口からは分別くさい言葉が出て、年相応だと改めて感じました。こうして何事も無かったかのように40年近くたった今も昔の面影そのままに集まれるのは何と幸せな事かと思いました。本当に良き時代に中学生生活を送ったと思います。又、音楽の授業で「コロラドの月」をよく歌いました。

同窓会設立以来の2期の松尾佐和子副会長が昨年の8月に、3期の飯島巖代代表幹事が本年の4月に逝去されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

弦中同窓会の歩み

同窓会副会長 後藤 宣夫

今から8年程前、弦中の卒業生が1万名に迫る頃、当時の小池校長先生から、今というタイミングをはずしたら卒業生の心の故郷としての同窓会をまとめる事は難しくなるのではないかとのお話をいただいた事が契機となって、弦中1期生の新川勝二氏（現同窓会会長）等の努力によって会が誕生致しました。

第1回総会は平成3年10月に弦中体育館で開催されています。300名余りの卒業生と多くの恩師の先生方にご参加頂きました。

当日は、4期生岡本美智子氏（当時、桐朋音楽大学助教授）のピアノ、9期生平野千草氏（チェロ演奏家）のにお二人の特別演奏会があり、大きな感動を呼びました。

第2回総会は平成6年11月に開催されています。会報誌（弦の子）の発行、卒業生名簿の編纂などにより、一層同窓会らしくなってきました。総会では世界柔道の頂点に立つお二人のバルセロナオリンピック、ゴールドメダリスト、27期生古賀稔彦選手、29期生吉田秀彦選手をお迎えしての模範演技と講演がありました。迫力と率直なお話し振りに会場も大いに沸き立ちました。

そして今年、平成9年11月9日に第3回総会が開催されます。そこで今回からは同窓会と地域のコミュニティとしての催し（フリーマーケット）を併催することとして、新しい試みにチャレンジしています。

特別講演としては、日本の恐竜博士として有名な10期生松川正樹氏（東京学芸大学助教授）をお招きして、お話を伺う事になりました。また弦中演劇部の協力公演もあります。

一般的に区立中学の同窓会は続ける事が難しいと言われていています。名簿、会報誌作り等の手間、経済的負担も大きく、多くの方々の協力が必要だからです。ぜひ、会員の皆様のご協力をお願いします。

弦中の最近の3カ年

教頭 川上 昭南

平成6年度の総会以後の弦巻中学校の動きについて記します。

平成7年

3月にプールを改修、昭和53年以来使用されてきたのですが、塗装もはがれ排水溝も傷みが激しく老朽化していました。それをきれいに塗り、スタート台も新しくなり、さらにプールサイドも緑色のノンスリップのシートに張り替えられ、安全になりました。

8月には校舎内の照明器具を増設したり、廊下や階段の電気回路を変えて、明るく大変便利になりました。

11月には創立40周年記念式典を生徒・保護者・地域の方々・OBの職員・現役の職員で盛大に祝いました。

平成8年

4月1日には、第12代校長として、区内芦花中学校より長田輝男先生をお迎えし、新体制のスタートを切りました。

夏休みには校舎の外壁塗装工事が始まり、10月に終了し外観がとてもきれいに雨漏りが無くなりました。廊下の水浸しも解消され、今年の梅雨は雨水に悩まされることもなく、快適な学校になりました。

平成8年の最後を飾ったのは柔道部でした。近代柔道杯全国中学校大会で優勝いたしました。

平成9年

今年の体育大会は、6月第2土曜日に行われ、天候に恵まれ、多くの保護者の皆様や地域の方々の見守るなかで、生徒たちは日頃の成果を思いきり発揮し、盛り上がりのある体育大会になりました。

これからも伝統を大切にしながら、「やる気」「勇気」「活気」のある、学校を作っていきたいと思っています。

弦巻中学校同窓会 会計報告

(平成6年4月1日～平成9年3月31日)

収 入		支 出	
平成6年度			
繰越金	2,129,324	お祝金	30,000
39期会費	228,948	通信費	523,345
特別会費	842,000	事務用品費	116,806
名簿代	472,500	雑費	13,848
同窓会参加費用	219,000	名簿印刷代	870,350
利息	138,355	同窓会誌印刷代	133,900
		同窓会総会費	261,898
		次期繰越金	2,079,980
	4,030,127		4,030,127
平成7年度			
繰越金	2,079,980	お祝金	30,000
40期会費	214,000	通信費	4,150
名簿代	53,000	会議費	60,000
利息	1,501	弦中40周年記念品代	150,000
		次期繰越金	2,104,331
	2,348,481		2,348,481
平成8年度			
繰越金	2,104,331	お祝金	30,000
41期会費	198,022	通信費	18,850
特別会費	12,000	事務費	13,375
名簿代	36,000	会議費	35,000
ボロ市参加お礼	100,000	慶弔費	15,450
利息	3,853	雑費	1,300
		次期繰越金	2,340,231
	2,454,206		2,454,206

平成9年7月27日監査 吉楽マサエ 森明子

弦巻中学校同窓会 予算案

(平成9年4月～平成12年3月31日)

収 入		支 出	
H8年度繰越金	2,340,231	H9年度総会費 (含講師謝礼)	260,000
終身会費 (H9年度～H11年度@1,000×516人)	516,000	同窓会誌発行及び郵送費	1,200,000
特別会費 (H9年度～H11年度@2,000×250人)	500,000	入学式等祝い金	90,000
総会参加費	200,000	諸費用合計	300,000
その他 (ボロ市他)	300,000	役員会 (年6回×3年)	
		幹事会 (年2回×3年)	
		その他	
		次期繰越金	2,006,231
	3,856,231		3,856,231

第3回同窓会(弦中フェスタ)のご案内

第3回同窓会を下記のとおり開催いたします。

今回は地域との交流も含めて、フリーマーケットと模擬店を同時に開催いたします。

皆様お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

1. 開催日時 同窓会：平成9年11月9日(日) 14:00～16:30
弦中フェスタ(フリーマーケット) 11:00～16:00
2. 開催場所 弦巻中学校(体育館及び校庭)
3. 会費 1期～36期生…1,500円
37期生以降……500円
4. 内容 1) 同窓会・総会・議事
2) 講演会「恐竜の絶滅と人類の未来」
10期生松川正樹氏(東京学芸大学助教授)
3) 演劇(弦中在校生による演劇)
4) 懇親会(教職員の方々のご紹介及び歓談)
5) 弦中フェスタ(フリーマーケット) 併催



講師紹介：松川正樹先生(東京学芸大学助教授) 第10期・昭和41年卒業

専門は古生物学、地学教育。東アジアの後期中生代の地質とアンモナイト、淡水生二枚貝類化石と恐竜足跡に基づき、古地理、古環境や生物相の構成と変遷を主たる研究テーマにしている。

特別会費納入にご協力を

皆様のご協力によって、平成3年に同窓会が発足し、名簿の整備も進み、第3回同窓会総会を開催する運びとなりました。

ところで、当同窓会最大の悩みは活動資金の不足にありまして、毎年卒業生に納めていただく終身会費(年約20万円)だけでは、1万名を越す同窓生の会を支えていくことが困難な状況にあります。

弦中卒業生の絆を末長く維持するための同窓会活動にご理解いただき、今回も特別会費納入を改めてお願いする次第です。

お手数ですが所定の振込用紙を同封致しましたので、宜しくお願いいたします。

会費：1口2,000円(何口でも結構です)

対象の会員：1期(昭和32年卒)～37期(平成5年卒)

上記の件についてのご連絡は、

弦巻中学校川上教頭先生/3428-8381(8382)

までお願いします。

不明者リストの反響

弦の子No.1に掲載しました不明者リストに対して、会員の皆さまから68通の返答があり、172名の空白を新たに埋める事ができました。それでも名簿発行から3年、新たに転居されて不明になられた方、役員・幹事・会員の方の再調査による住所変更、そして名簿上の間違いによって、総数680名分が変更を受けることになりました。このように激しい変動に私たちも懸命に調査していますが、やはり皆様のご協力が一番です。より良い同窓会、より良い名簿を目指してがんばりますので、皆様のより一層のご協力をよろしくお願い致します。

(名簿担当 本田)

〒1540016 東京都世田谷区弦巻1-42-22

TEL: 03-3428-8381 FAX: 03-3427-8537

世田谷区立弦巻中学校同窓会誌

「弦の子」No.2 1997年10月1日発行

発行人 新川勝二 編集人 三田博
編集委員 本田 巖、蛭川澄夫、佐野由美子、
沼田 彰、横田節子
印刷所 有限会社グッド・プランナー